

ますの 話 題

往年の名車が揃い踏み

「クルマと文化の融合」をテーマに毎年春、阿蘇くじゅう国立公園周辺で開催される、世界の名車によるツーリングイベント「チエントミリアかみつえ」が4月10日、11日に開催されました。今回は、清和高原天文台と道の駅通潤橋がツーリングのスタンブポイントの会場となり、トヨタ2000GT、ホンダS600、ポルシェ、ロータス、アルファロメオなど日本や世界の名車48台が新緑の山都路を駆け抜けました。



清和高原天文台にそろった各国の名車

山開き in 目丸山

4月28日、九州ハイランドインストラクター協会山都支部が主催する山開きが行われました。今年は目丸山山頂までのコース。登山口入り口でシーズン中の安全を祈願した後に出発。参加した皆さんは、景色や春の花々を見ながら、それぞれのペースで山頂を目指しました。ちょうど「カタクリ」の花が見頃を迎えており、参加者も足を止めて見入っていました。



交通安全 ハレーパレード

春の交通安全運動にあわせ、肥後ハレー会のみなさんが、そよ風番所から通潤橋前までの40kmをパレード。肥後ハレー会からは毎年、交通安全のために役立ててほしいと山都町交通安全協会へ寄付をいただいています。



地域の交流の場に

地域介護・福祉空間整備等交付金事業を活用した、旧下矢部西部小学校校舎改修が完了し落成式が行われました。同校舎は現在、下矢部西部自治振興会が借り受け、下矢部西部地区社会福祉協議会とともに地域のお年寄りの交流の場や世代間交流施設として利用し活動されています。今回、トイレ等の改修や備品等の設備を整備、より便利に利用できるようになりました。当地区は高齢化率が高く、自然災害も多い地区でもあるため緊急避難場所として、また地域福祉の拠点としてよりいっそうの活動が期待されます。



馬見原追分と ボタンの共演



美しい歌声とボタンの花の共演

4月29日、馬見原公民館において「民謡馬見原追分唄祭」が開かれ、素晴らしい歌声が馬見原のまちに響きました。馬見原自治振興区女性の会（後藤サドリ代表）が主催して行った3回目となるこの唄祭り、大阿蘇蘇陽太鼓「喜楽」の演奏で幕を開けました。県内はもとより宮崎県日向市などから104名の参加がありました。会場には、女性の会で育てた美しいボタンの花が並び、まさしく花を添えていました。

菅地区農村暮らし体験交流会

都市農村交流の拡大による地域づくりを行っている菅地区と福岡市の異業種交流団体「天神横丁文化倶楽部」との交流会が4月25日に行われました。これは、鮎の瀬交流館帯山店を営んでいる菅純一郎さんと同倶楽部メンバーとの交流がきっかけとなり実現したものです。当日は倶楽部参加者43名が3〜4人ずつに別れ、菅地区の12軒の農家を訪問。それぞれの家族と地元での郷土料理を囲んで昼食をとった後、タケノコ掘りやシイタケワラビ狩りなど、思い思いに春の「農村暮らし体験」を楽しみました。



成人式奨励賞受賞

1月4日に行われた山都町成人式が、新成人式研究会（文部科学省後援）が主催する「第10回成人式大賞」で成人式奨励賞を受賞。奨励賞は企画構成及び運営が全般に渡って優れていて、今後の一層の向上が期待されるものに贈られます。当時実行委員を務めた皆さんも受賞に驚いたとの感想でしたが、自身が運営に携わった成人式が受賞したことはそれぞれの自信につながることでしょう。



実行委員の皆さん(左から肥高さん、東さん、下田さん、佐藤さん、原さん)

「五緑（ゴミ）の日」 清掃活動

五ヶ瀬川・緑川流域の更なる環境美化を目的として、4月29日、五ヶ瀬川・緑川の頭文字をとって「五緑（ゴミ）の日」と銘打った清掃活動が町内各所で行われました。拠点箇所の一つとなった清和体



育館前には、地域住民など約50名が集結。大矢川や国道沿いのゴミ拾いなどの清掃活動に汗を流しました。

通学路の清掃作業

入佐防の園組の10名で組織される「まるめ会」のみなさんが、4月4日、入佐地内の県道の除草、清掃作業を行いました。同会では毎年、新学期の始まる前に、小学校の通学路となる県道の清掃が行われています。2学期が始まる8月末にも行う予定です、きれいで安全な通学路で子どもたちの健やかな成長を支えています。

